

10日 土曜

伝道者の書



1:12 伝道者である私は、エルサレムでイスラエルの王であった。

1:13 私は、天の下で行われる一切のことに ついて、知恵を用いて尋ね、探し出そうと心に決めた。これは、神が人の子らに、従事するようにと与えられた辛い仕事だ。

1:14 私は、日の下で行われるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空しく、風を追うようなものだ。

1:15 曲げられたものを、まっすぐにはできない。欠けているものを、数えることはできない。

1:16 私は自分の心にこう言った。「今や、私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、知恵を増し加えた。私の心は多くの知恵と知識を得た。」

1:17 私は、知恵と知識を、狂気と愚かさを知ろうと心に決めた。それもまた、風を追うようなものであることを知った。

1:18 実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識が増す者には苛立ちも増す。

神なき価値観に空しさを覚えることは大切なことです。仕事でも子育てでも人間関係でも勉強でも、買い物や趣味でも、もしもその目的ややりがいに神の存在がないまま満足していたなら、その人の人生はだんだんと神から遠ざかってしまうでしょう。本書の著者と思われるソロモンが、王として考えられる全てを手に入れた後でさえ感じた「すべてがむなしなことよ」ということばは、熟慮に値するものです。

ソロモンは栄光の王ダビデの子として生まれ、ダビデ以上の栄華を手に入れましたが墮落し、その後信仰が回復してから、この書を書いたとされています。

ます。どんな栄華を手に入れても、神様から離れている人生はむなししいということを覚えましょう。

中には大きな試練にあってから初めてそのことに気づく人も、少なからずありますが、その前に神に立ち返ることは感謝です。思いと生き方が神様から離れて、あとから「むなしかった」と後悔することのないようにしましょう。

著者は知恵を用いて、人間の「すべてのわざを見よう」とし、人文科学的な研究をしたようです。しかし、その人間自体が「むなししい」ものなので、「風を追うような」実態のないものとなったと告白しています。活字でもインターネット上でも無限と書いていいほどの情報がありますが、すべては消えてしまうものです。それらを追って知恵を求めても、むしろ「悩みも多く」なります。

神のみこころと目的とご計画による価値観で生き、知恵を求めましょう。また情報を生かしましょう。それがなければ、ただ疲れるだけです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

